

八戸市中央卸売市場 青果部 取扱高実績

資料 1

1. 取扱高 期間：令和5年1月から12月まで（開市日数 253日）
 数量：97,695 t（前年比 98.8%）
 金額：22,485,041 千円（前年比 103.0%）

2. 月別取扱高

上段：数量(t)と前年比 下段：金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年取扱高
野菜	4,322	5,002	6,853	5,250	5,512	7,885	9,101	6,946	8,219	11,283	8,877	5,748	84,998	86,000
	91.4%	96.2%	115.4%	84.6%	91.7%	102.1%	110.6%	98.3%	96.5%	105.3%	94.5%	91.6%	98.8%	
	1,105,920	1,332,673	1,599,480	1,353,170	1,197,997	1,324,821	1,534,317	1,399,056	1,875,762	2,360,713	1,588,011	1,470,077	18,141,997	17,740,809
	91.5%	96.8%	104.9%	100.0%	86.6%	96.6%	101.0%	98.1%	114.6%	121.0%	103.6%	101.2%	102.3%	
果実	981	1,094	1,149	822	735	664	754	1,177	929	1,141	1,546	1,411	12,403	12,549
	99.5%	101.3%	110.1%	93.8%	109.4%	105.9%	97.6%	104.8%	90.9%	94.7%	100.8%	87.7%	98.8%	
	285,804	312,432	342,219	272,747	274,216	291,508	323,031	414,026	315,308	381,621	471,661	478,483	4,163,056	3,899,715
	98.5%	96.7%	96.9%	90.9%	104.6%	104.1%	104.7%	114.6%	111.1%	122.7%	122.7%	108.3%	106.8%	
その他 (野菜・果実加工品、鳥卵、その他)	27	27	35	22	31	21	18	17	16	21	24	35	294	362
	82.1%	77.0%	74.9%	69.7%	78.6%	113.2%	91.2%	83.2%	76.1%	81.1%	71.8%	92.3%	81.2%	
	18,149	17,194	18,532	13,190	14,916	10,274	8,213	9,978	8,930	12,183	16,911	31,518	179,988	188,360
	103.8%	86.0%	87.4%	103.7%	98.7%	113.3%	84.2%	80.3%	81.6%	97.0%	99.0%	105.1%	95.6%	
合計	5,330	6,123	8,037	6,094	6,278	8,570	9,873	8,140	9,164	12,445	10,447	7,194	97,695	98,911
	92.7%	97.0%	114.3%	85.6%	93.4%	102.4%	109.4%	99.2%	95.8%	104.2%	95.3%	90.8%	98.8%	
	1,409,873	1,662,299	1,960,231	1,639,107	1,487,129	1,626,603	1,865,561	1,823,060	2,200,000	2,754,517	2,076,583	1,980,078	22,485,041	21,828,884
	92.9%	96.6%	103.2%	98.4%	89.6%	97.9%	101.5%	101.3%	113.9%	121.1%	107.3%	102.9%	103.0%	

3. 入荷及び価格の状況

〔野菜〕

1月は10年に一度の強烈な寒波の影響から、物流・農作物に大きな影響を及ぼした。大根・キャベツ・レタス・白菜・きゅうり・ピーマン等は、軒並み前年を下回る取引で、単価高となった。2月から3月は気温の上昇とともに多くの品目で生育が回復し、前年比1割から2割の単価高となった。4月は温暖な気候であったものの、県産のごぼう・長芋は入荷減の単価高で推移、関東産の大根・キャベツ・白菜等も入荷減となり不安定な入荷が続いた。大型連休前は、需要の増加から野菜全般の相場が上昇したものの、連休明けは需要も落ち着き、また、葉菜類や果菜類なども入荷が潤沢となったことから相場は軟調となった。6月は生育順調となり、県産の大根や関東産の人参は、数量は前年の3割増、単価は平年の1割安であった。果菜類では胡瓜が高値となった。7月から9月は高温の影響で、全般的に品質が低下し、入荷減の高値傾向であった。10月も高温の影響が続き平年を上回る単価高が続いた。11月は気温も下がり、葉菜類や果菜類は生育が順調で軟調な相場。人参は北海道産が終了、長芋はキズ加工品が多いものの堅調な販売となった。

〔果実〕

りんごは、他県産の在庫が多かったため荷動きは鈍く、特に大玉は厳しい販売でスタートした。2月まではりんご・いちご・みかん・柑橘類が主力の販売となり、いちごは低温の影響で出回りが少なく、高値が続いた。3月も販売の中心は変わらないものの、西瓜やメロンなどの果菜類の販売が始まった。4月から5月になると、いちごは終盤を迎えた。6月から8月までは県外産の西瓜・メロンが販売の主力、後半からは青森県産が販売の主力となり、数量は前年比2割増、単価は1割安。また8月から9月は高温が続き、品質低下が多く見られ、少ない入荷となった。10月は県内、県外産ともに夏場の高温障害による着色不良からの出遅れや品質低下によるロスが目立ち、ほぼ全ての品目において過去5年平均単価を上回る高値となった。11月は各産地の降水量が少なく、みかんは小玉傾向であった。

八戸市中央卸売市場 花き部 取扱高実績

資料 1

1. 取扱高 期間： 令和5年1月 から 12月まで (開市日数 241日)
 数量： 11,538 千本 (前年比 98.1%)
 金額： 1,153,628 千円 (前年比 100.4%)

2. 月別取扱高

上段:数量(千本・千鉢・千個)と前年比 下段:金額(千円)と前年比

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年取扱高
切花	634	666	1,546	752	883	714	755	1,279	1,061	607	616	1,081	10,594	10,756
	106.7%	99.4%	104.7%	88.6%	105.0%	96.8%	103.0%	91.9%	98.2%	93.1%	93.0%	101.3%	98.5%	
	63,799	68,325	147,826	65,243	72,449	59,084	69,076	127,132	111,186	67,532	59,367	111,281	1,022,300	1,014,006
	113.0%	120.1%	110.8%	86.8%	93.1%	96.7%	106.0%	94.2%	106.7%	94.5%	88.8%	100.7%	100.8%	
鉢物	4	7	14	13	12	9	4	2	3	8	9	7	92	89
	108.2%	119.1%	120.2%	90.4%	103.8%	136.3%	83.1%	126.2%	73.8%	118.8%	103.4%	77.8%	103.4%	
	2,019	3,620	7,099	7,721	7,317	4,418	3,684	2,354	3,187	4,252	6,269	4,574	56,514	54,152
	108.0%	111.2%	118.2%	89.2%	127.8%	94.3%	119.2%	105.3%	113.6%	114.7%	103.6%	75.4%	104.4%	
その他 (枝物、観葉植物、 苗物、植木、加工 品、その他)	36	115	83	101	115	98	39	39	38	40	39	109	852	912
	109.2%	93.1%	123.5%	80.1%	82.4%	90.6%	89.1%	156.1%	103.7%	89.6%	90.4%	90.3%	93.4%	
	2,343	5,125	5,517	9,922	10,034	8,152	3,973	3,586	3,760	4,920	4,192	13,290	74,814	80,659
	100.2%	105.4%	120.4%	76.0%	85.7%	86.1%	91.1%	134.7%	90.5%	93.9%	99.1%	94.9%	92.8%	
合計	674	788	1,643	866	1,010	821	798	1,320	1,102	655	664	1,197	11,538	11,757
	106.8%	98.6%	105.6%	87.5%	101.8%	96.3%	102.1%	93.1%	98.3%	93.1%	92.9%	100.0%	98.1%	
	68,161	77,070	160,442	82,886	89,800	71,654	76,733	133,072	118,133	76,704	69,828	129,145	1,153,628	1,148,817
	112.4%	118.5%	111.4%	85.5%	94.3%	95.2%	105.6%	95.1%	106.3%	95.4%	90.5%	98.9%	100.4%	

3. 入荷及び価格の状況

〔切花〕

年が明けて年末需要が終わると、国産品は安定して入荷、輸入品は不安定な入荷で取引がスタートした。2月まで国産品・輸入品ともに高値での取引が続いたが、3月になると学校行事や歓送迎会用の花が取引され、徐々に安定。4月中旬からは全国的に急激な気温上昇により開花が進み、動きは鈍くなった。5月から6月は父の日に向けてのヒマワリなど黄色い花が多く取引され、単価は中値で安定していた。7月から8月になると、高温の影響で品質は安定せず、輸入品が主な取引となった。また、品質維持が難しく注文のみの対応が目立っていた。9月は秋彼岸需要に対し入荷本数が少なく、中値から高値の単価で推移、高温の影響から品質低下や短いサイズの出荷が目立った。10月、11月になっても夏の高温の影響により、商品が少ない状態が続いた。輸入品は安定して入荷したが、品質低下により単価が不安定だった。国産品は入荷が少なく伸び悩んだ。

〔鉢物等〕

1月はシクラメンやポリアン類の入荷量が少なく高値基調となった。3月は贈答用の蘭類や観葉植物の引き合いが強く、苗物は県内から入荷したものの、引き合いは強くなかった。4月は関東や南東北からの入荷が多く、引き合いもよかった。また、八戸市緑化まつりに向けた取引もあり、動きはよかった。5月は母の日用として、小型の蘭物や紫陽花が多く入荷したが、やや落ち着いた相場であった。7月から9月は高温の影響で、県内や東北地方からの出荷はほぼ無く、関東からの入荷が主となった。また例年に比べて動きは鈍く、花痛みが目立った。10月になっても気温は高く、シクラメンや葉牡丹の引き合いが弱かった。